

教会報ほんじよ

〒130-0011 東京都墨田区石原 4-37-2
TEL : 03-3623-6753 FAX : 03-5610-1732
http://www.catholic-honjyo-church.org

INDEX

- 「晩春」 主任司祭 パウロ 豊島 治
- 「写真で見る聖週間」
- 「司牧評議会からの
お知らせ」
- 「仁川修道院への
ご支援に対するお礼」
- 「追悼ミサ
故ヨセフ阿部眞理修道士」

「晩春」

主任司祭
パウロ 豊島 治

五月のご挨拶を申し上げます。

さわやかな新緑の中、聖母月を迎えています。「レジナチェリ、レタレ、アレルヤ。天の元后、喜びたまえ。アレルヤ。」復活節の喜びを聖母とともに讃えて、教会は、このように歌います。

鐘楼のある教会ではこの祈りを促すため、朝昼晩と鐘がなります。最近では近隣住民の方の生活環境を考慮し、音を弱くするとか、朝六時の鐘を遅らせるとか、いわゆる「呼び鐘」としてミサの開始、冠婚葬祭の送りなどに代えて使われているときいています。

私が入学した時の神学校は校舎の外につるされた鐘があり、典礼当番の中には「鐘つき当番」がありました。鐘に紐を結び滑車に通しただけのシンプルなものに加減が難しい。弱く引くと鐘の中にある

「舌(ゼツ)」が音を出すのですが、これが当たらないと空振りとなり、強すぎると鐘が一回転してしまうので紐が滑車から取れてしまふこともあり、とにかく聞くに堪えないメロディになる。

オンタイムでなくてはならないので練習もできない。なかなかスリルがありました。神学校近くのお茶屋さんに行くとき「新入生がはいったのね」という春のあいさつは、この鐘のリズムの違和感によるものだそうです。約二十年前神学校は新しい校舎が建てられましたが、予算の都合上と、鐘はなくなってしまいました。復活節の間は「アレルヤの祈り(レジナチェリ)」「普段は「お告げの祈り」の言葉と合わせて間をとります。四ツ谷ではときどき、歩く足をとめて胸に手を当てて祈っている方をみかけます。

聖務日課といわれていた「教会の祈り」の実践もインターネット配信で合わせる方ができました。教会の祈りの配信チャンネルを登録されている方は四百人を超えています。とはいえ、実際祈りは

きっかけがないとなかなか自力で持続するのが難しい。自己流の祈りも必要があるのでしょうか、やはり全世界の信仰者と言葉を合わせて捧げる祈りも一致の慶びがあります。鐘の音をとまていかなくても、きっかけをつくって祈りのタイミングを工夫できたらいいと思います。



本所教会
アンジェラスの鐘



最後に前号巻頭言の訂正をさせていただきます。叙階式の「着付け司祭」については、先日の叙階式で教区新司祭の二人は実習先の主任司祭による着付けを選んだそうです。ゆえに、着付け司祭は本所教会ゆかりの福島一基神父様ともう一人は加藤豊神父様でした。稲川保明神父様は司祭団席先頭の席におられたということでした。